

(29) **36B08** (系統名 36B08) 2004年
登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 輸交
第28号

セールスポイント

やや多収で、ごま葉枯病抵抗性がやや強い中生品種である。

来歴 本品種は、アメリカのパイオニア社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。2000年にホクレン農業協同組合連合会が導入し、2001年より「36B08」の系統名で各種の試験を行い、2004年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「3845」並かやや遅く、収穫時熟度は

- 「3845」並かやや遅れる。総体の乾物率は「3845」よりやや低い。熟期は中生の晩である。
2. 初期生育は「3845」並かやや劣る。稈長は「3845」より低く、着雌穂高は「3845」並である。耐倒伏性は「3845」並である。
3. すず紋病抵抗性は「3845」並で「キタユタカ」より強い。ごま葉枯病抵抗性は「3845」及び「キタユタカ」より強い。
4. 乾総重、推定TDN収量は「3845」よりやや多く、乾雌穂重割合は「3845」より低い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央（北部を除く）及び道南地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽 出 期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 農 研 セ ン タ ー	3 6 B 0 8	6.2	8. 8	17.7	黄 中	1,932	1,377	105	27.9	71.3	2001～2003
	3 8 4 5	7.7	8. 7	10.2	黄 中	1,809	1,309	100	30.2	72.4	
上 川 農 試	3 6 B 0 8	6.5	7.31	0.0	黄 初	2,205	1,564	102	28.9	70.9	2001～2003
	3 8 4 5	6.5	7.31	1.4	黄初～中	2,120	1,528	100	30.6	72.1	
畜 試 滝 川 試 験 地	3 6 B 0 8	5.7	8.14	1.2	黄 中	1,647	1,165	103	25.9	70.5	2001～2003
	3 8 4 5	6.1	8.13	3.7	黄初～中	1,566	1,132	100	27.0	72.1	

参照 1)北海道農政部編，平成16年普及奨励ならびに指導参考事項，24－25（2004）。

4. 大豆

(1) **いわいくろ** (系統名 中育39号) 1998年
登録番号(北海道) 大豆北海道第36号
(農水省) だいず農林107号
(種苗法) 第9796号

セールスポイント

早熟で極大粒の黒大豆で、粒が豊満であり煮豆加工適性に優れる品種である。

来歴 本品種は、極大粒、良質多収、ダイズわい化病抵抗性の黒大豆品種の育成を目標に、1986年に北海道立中央農業試験場において「晩生光黒」を母、「中育21号」を父に人工交配し、以降、系統育種法により選抜・育成した。1993年に「中系305号」、1994年から「中育39号」の系統名で各種試験を行い、1998年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

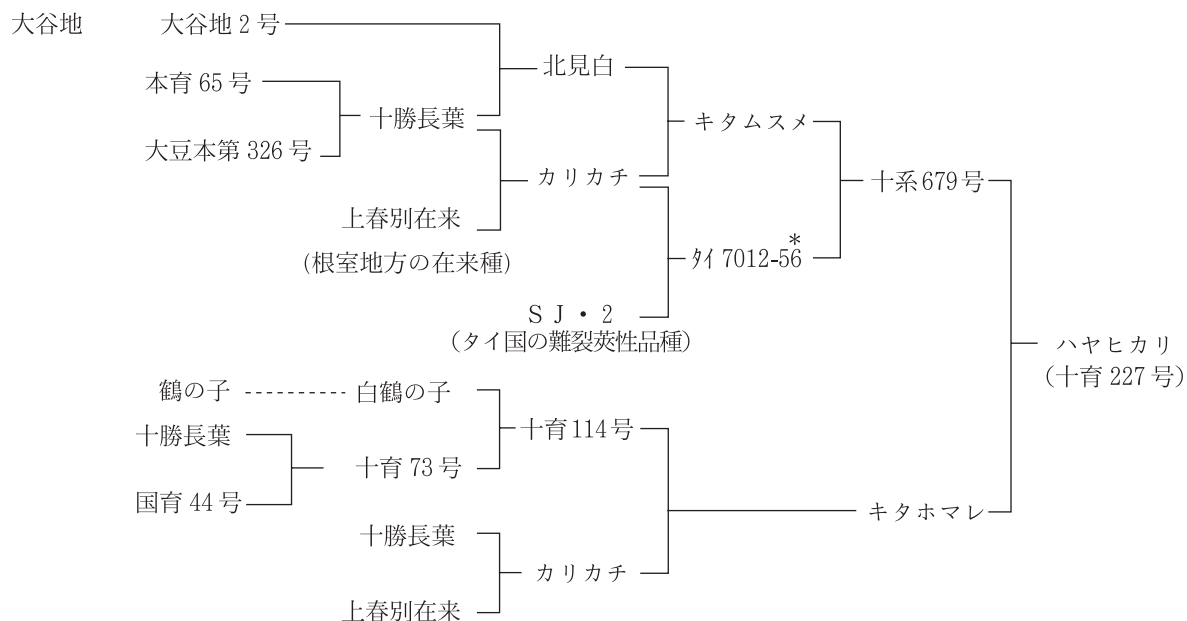
1. 成熟期は、ほぼ「トカチクロ」並みの中生種である。
2. 主茎長は「中生光黒」、「晩生光黒」より短く倒伏はこれらより少ない。小葉は円葉、花色は白、毛茸色は褐、熟莢色は褐、裂莢の難易は易である。
3. 粒の大きさは極大粒で「中生光黒」より15%以上重い。粒形は扁球であるが丸みがあり豊満である。粒の光沢は「中生光黒」の強に対し中である。裂皮の難易は中で裂皮粒の発生は「中生光黒」より多いが、このうち、検査上問題となる大裂皮粒はあまり発生しない。外観品質は「中生光黒」より優れる。
4. 収量は「中生光黒」よりやや劣るが、規格内収量（道南の函黒規格，ふるい目9.1mm以上）は同品種より多く「晩生光黒」に近い。
5. わい化病抵抗性はやや強である。シストセンチュウ、茎疫病およびべと病抵抗性は弱である。

- (2) **ハヤヒカリ**（系統名 十育227号）1998年
登録番号：（北海道）大豆北海道第37号
（農水省）だいで農林108号
（種苗法）第9797号

セールスポイント

早熟で、耐冷性が強く、密植による増収効果が高いコンバイン収穫向きの褐目品種である。

来歴 本品種は、1983年に北海道立十勝農業試験場において、耐冷性が強く安定多収で機械収穫向き難裂莢性品種の育成を目標とし、「十系679号」を母、「キタホマレ」を父として人工交配を行い、以後選抜と固定を図り、その後代から育成したもので、1992年から「十系802号」、1994年からは「十育227号」の系統名で各種試験を行い、1998年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



注) *タイ7012-56：日・タイ間的大豆育種に関する共同研究により昭和45年にタイ国において人工交配し、F₄以降北海道立十勝農業試験場で選抜してきた難裂莢性の育成系統である。

特性概要

- 主茎長は「キタムスメ」の中に対し短、主茎節数と分枝数はいずれも少である。伸育型は有限であり、熟莢色は褐を呈する。
- 胚軸色は緑、花色は白、小葉の形は円葉、毛茸は褐・直毛でその多少は中程度である。
- 粒形は「キタムスメ」と同じ球、粒の大小は同品種の中の大に対し中である。臍の色は暗褐、種皮の色は黄白である。
- 開花期、成熟期はともに「キタムスメ」より早く中の早であり、生態型は夏大豆型に属する。
- 子実収量は標準密度では「キタムスメ」並であるが、密植では「キタムスメ」より多い。低温抵抗性（開花期／生育期）は同品種と同じ強／強である。
- シストセンチュウ抵抗性、わい化病抵抗性、黒根病抵抗性および茎疫病抵抗性は「キタムスメ」と同じく弱である。倒伏抵抗性は同品種の中に対し強である。裂莢の難易は同品種の易に対し難であり、最下着莢節

位高は同品種よりやや低い中である。

- 外観上の品質は「キタムスメ」並であるが、裂皮粒の発生は同品種より少ない。
- 子実の粗蛋白および粗脂肪含有率は「キタムスメ」と同様にそれぞれ低および中である。豆腐、納豆および煮豆の加工適性はいずれも同品種と同等である。また味噌の加工適性は同品種並に優れ、もやしの加工適性は同品種より優る。

栽培適地と奨励態度

十勝（中央部を除く）、網走、上川、留萌地域およびこれに準ずる地帯に適する。栽培上の注意は、1.わい化病抵抗性が弱なので防除を徹底するとともに圃場周辺の雑草化したクローバの除去に努めること、2.シストセンチュウ抵抗性も弱なので発生圃場への作付けは避け適正な輪作のもとで栽培すること、3.密植により増収が期待されるので倒伏に注意しながら密植に努めること、である。

試験地名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			倒 伏 程 度	10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢 数 (莢)		子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	ハヤヒカリ	7.21	9.29	57	4.5	78.3	無	323	96	26.2	2 中	1994～ 1997
	キタムスメ	7.24	10. 6	71	5.1	68.6	少	337	100	29.8	2 上	
	北 見 白	7.23	10. 6	65	5.1	70.8	少	327	97	26.1	2 上	
北見農試	ハヤヒカリ	7.26	10. 5	60	4.1	73.5	微	327	97	26.4	2 上	1994～ 1997
	キタムスメ	7.27	10.12	76	4.9	69.3	中	337	100	29.9	1	
上川農試	ハヤヒカリ	7.21	10. 3	68	6.1	110.5	中	474	104	28.5	2 上	1994～ 1997
	キタムスメ	7.22	10.10	89	6.3	97.3	多	454	100	29.8	2 上	

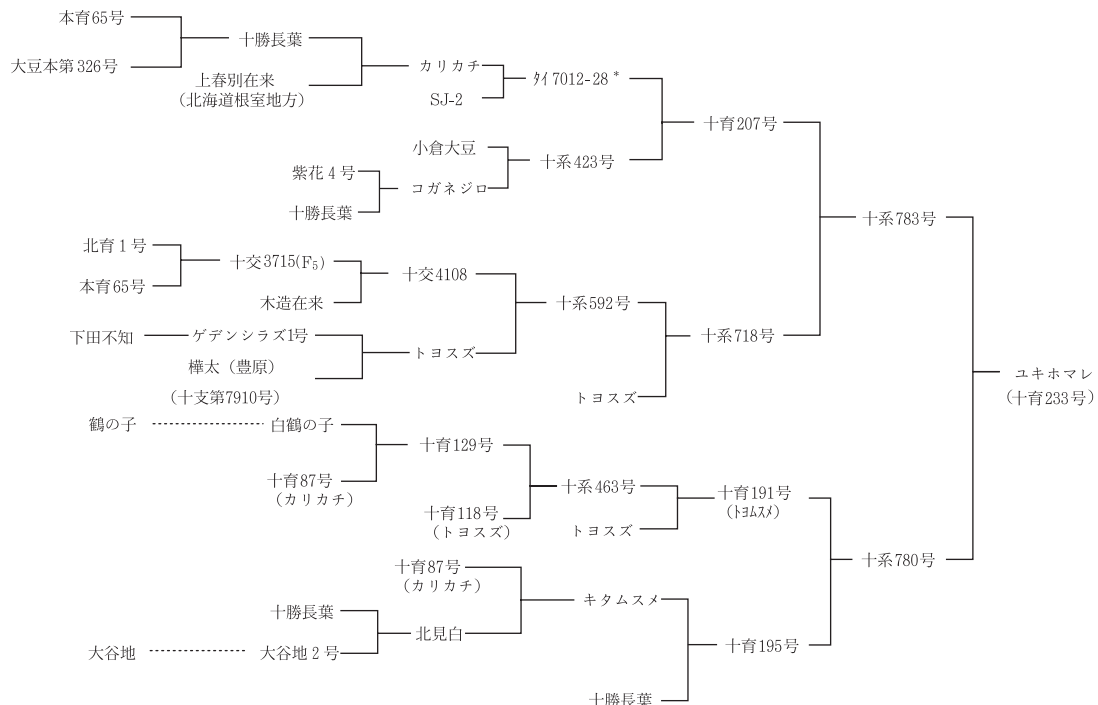
参照 1) 北海道農政部編, 平成10年普及奨励ならびに指導参考事項, 18-20 (1998).
2) 湯本節三 等, 北海道立農試集報. 78,19-37 (2000).

- (3) ユキホマレ (系統名 十育233号) 2001年
登録番号: (北海道) 大豆北海道第38号
(農水省) だいず農林118号
(種苗法) 第12279号

セールスポイント

早熟, 難裂莢性でコンバイン収穫適性が高く, 低温抵抗性, 臍周辺着色抵抗性およびシストセンチュウ抵抗性を有する白目中粒品種である。

来歴 本品種は, 1990年に北海道立十勝農業試験場において, 早生, 耐冷・安定多収, ダイズシストセンチュウ抵抗性で機械収穫向き難裂莢性品種の育成を目標とし, 「十系783号」を母, 「十系780号」を父として人工交配を行い, 以後選抜と固定を図り, その後代から育成したもので, 1997年から「十系890号」, 1998年からは「十育233号」の系統名で各種試験を行い, 2001年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。



注)*417012-28: 日・タイ間的大豆育種に関する共同研究により昭和45年に外国において人工交配し, F4以降北海道立十勝農業試験場で選抜してきた難裂莢性の育成系統である。

特性概要

1. 主茎長は「トヨコマチ」と同じ短, 主茎節数と分枝数はそれぞれ少と中である。伸育型は有限であり, 熟莢色は淡褐を呈する。

2. 胚軸色, 花色はともに紫, 小葉の形は円葉で, 毛茸は白・直毛でその多少は中程度である。
3. 粒形は「トヨコマチ」の扁球に対して球であり, 粒の大小は同品種と同じ中の大である。臍の色は黄, 種

皮の色は黄白である。

4. 開花期、成熟期はともに「トヨコマチ」と同じ中の早であり、生態型は夏大豆型に属する。
5. 子実収量は「トヨコマチ」並からやや多収であり、倒伏抵抗性は同品種と同じ強である。低温抵抗性（開花期／生育期）は、「トヨコマチ」のやや強／やや強、「トヨホマレ」の強／強に対し、やや強／強である。開花2～3週間後の低温の影響とされる裂開粒が発生することがある。
6. シストセンチュウ抵抗性は強、わい化病抵抗性は弱である。茎疫病抵抗性は強／強（レース群Ⅰ／Ⅱ）である。裂莢の難易は「トヨコマチ」の易に対し難であり、最下着莢節位高は同品種よりやや低い中である。
7. 外観上の品質は「トヨコマチ」並で、裂皮粒の発生

も同品種並の中である。

8. 子実の粗蛋白および粗脂肪含有率は「トヨコマチ」同様にそれぞれ中および低である。遊離型全糖含有率は同品種並に高い。煮豆、納豆、味噌および豆腐の加工適性は、いずれも「トヨコマチ」など白目中粒品種と同等である。

栽培適地と奨励態度

道央、上川、網走、十勝に適する。栽培上の注意は、

1. わい化病抵抗性が弱なので適切な防除に努めること、
 2. シストセンチュウ抵抗性は強であるが適正な輪作のもとで栽培すること、
 3. 早熟なので収穫期に達した後は雨害による品質低下を避けるため速やかに収穫すること、
- である。

試験地名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			倒 伏 程 度	10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢 数 (莢)		子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	ユキホマレ	7.18	9.22	64	4.0	67.2	微	351	100	36.2	2 下	1998～ 2000
	トヨコマチ	7.17	9.28	63	4.9	59.3	微	350	100	37.2	3 上	
	カリユタカ	7.21	9.30	69	5.7	70.2	微	354	101	34.1	2 中	
	トヨホマレ	7.20	10. 2	60	4.2	71.7	微	351	100	35.0	2 下	
北見農試	ユキホマレ	7.23	9.26	54	4.3	62.5	少	322	102	31.8	2 中	1998～ 2000
	トヨコマチ	7.23	9.30	56	5.0	59.3	少	316	100	32.0	2 下	
	カリユタカ	7.26	10. 6	57	5.8	72.7	少	316	100	28.8	2 中	
	トヨホマレ	7.25	10. 6	49	4.5	69.8	微	302	96	30.9	3 上	
上川農試	ユキホマレ	7.14	9.20	64	6.3	78.1	中	405	98	35.4	3 上	1998～ 2000
	トヨコマチ	7.13	9.23	64	6.5	79.2	中	412	100	33.6	3 下	
遺伝資源 センター	ユキホマレ	7.13	9.17	60	5.0	71.2	少	312	100	32.6	3 中	1998～ 2000
	トヨコマチ	7.14	9.20	61	5.8	75.2	中	311	100	29.5	3 上	
	カリユタカ	7.16	9.27	65	5.7	78.5	少	319	102	28.5	3 上	
中央農試	ユキホマレ	7.14	9.19	54	4.6	60.6	少	352	98	38.7	3 中	1998～ 2000
	トヨコマチ	7.14	9.24	53	5.0	66.2	中	358	100	36.3	3 上	
	カリユタカ	7.17	9.30	57	6.2	73.8	少	383	107	35.3	3 下	
	トヨホマレ	7.16	10. 3	52	4.1	73.3	中	359	100	35.4	2 下	

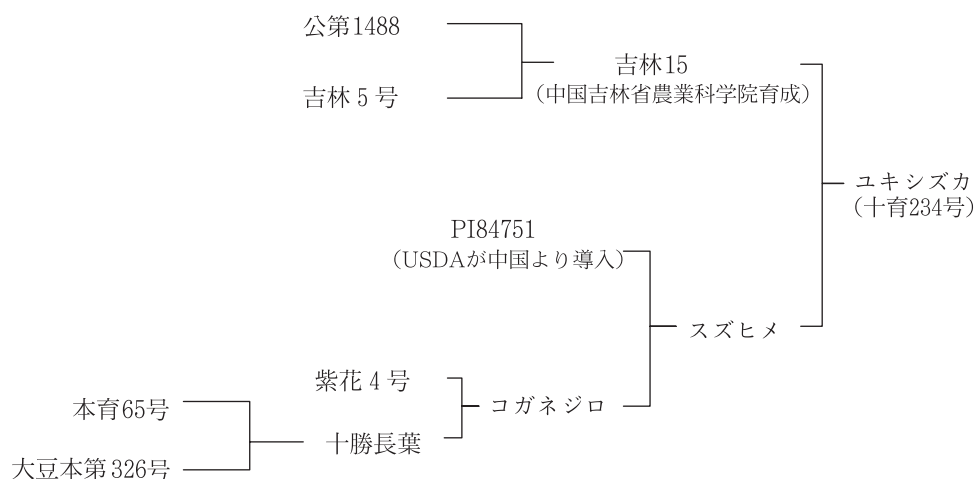
- 参照 1) 北海道農政部編，平成13年普及奨励ならびに指導参考事項，7－9（2001）.
2) 田中義則 等，北海道立農試集報. 84,13－24（2003）.

- (4) ユキシズカ(系統名 十育234号) 2002年
登録番号：(北海道) 大豆北海道第39号
(農水省) だいず農林124号
(種苗法) 第 号

セールスポイント

早熟で、耐倒伏性に優れ、コンバイン収穫に適し、シストセンチュウ・レース3に抵抗性の納豆向き小粒品種である。

来歴 本品種は、1990年に北海道立十勝農業試験場において、早生、安定多収、ダイズシストセンチュウおよびダイズわい化病抵抗性で機械収穫向き難裂莢性の納豆向き小粒品種の育成を目標とし、「吉林15号」を母、「スズヒメ」を父として人工交配を行い、以後選抜と固定を図り、その後代から育成したもので、1997年から「十系888号」、1999年からは「十育234号」の系統名で各種試験を行い、2002年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 主茎長、主茎節数および分枝数はそれぞれ「スズマル」の中、中および多に対して短、やや少および多である。伸育型は有限であり、熟莢色は淡褐を呈する。
2. 胚軸の色と花色は紫、小葉の形は長葉で、毛茸は色が白で、形は直、その多少は中程度である。
3. 粒の形は「スズマル」と同じ球であり、粒の大小は同品種と同じ小である。また、粒の子葉色は黄、光沢は弱、臍の色は黄、種皮の地色も黄である。
4. 開花期および成熟期は、それぞれ「スズマル」の中の晩および中に対して中および中の早である。生態型は夏大豆型に属する。
5. 子実収量は「スズマル」並からやや多収であり、倒伏抵抗性は同品種と同じ強である。低温抵抗性（開花期／生育期）は「スズマル」のやや強／弱に対し、やや強／中である。
6. シストセンチュウ抵抗性は「スズマル」の弱に対し

強、わい化病抵抗性は弱である。茎疫病抵抗性は強／強（レース群Ⅰ／Ⅱ）である。裂莢の難易は「スズマル」と同じ中であり、最下着莢節位高は中で同品種の高より低い。

7. 外観上の品質は「スズマル」並で、裂皮粒の発生は「スズマル」より少ない難である。粗蛋白含有率および粗脂肪含有率は「スズマル」同様にそれぞれ中および低である。また、遊離型全糖含有率は「スズマル」並である。納豆の加工適性は、「スズマル」と同等である。

栽培適地と奨励態度

道央、上川、網走、十勝に適する。栽培上の注意は、1. わい化病抵抗性は中なので適切な防除に努めること、2. シストセンチュウ・レース1 優占圃場への作付けは避けること、3. 耐倒伏性が強く最下着莢節位高がやや低いので土壌条件等を考慮して密植栽培に努めること、である。

試験地名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			倒 伏 程 度	10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢 数 (莢)		子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	ユキシズカ	7.20	9.30	60	7.1	135	無	361	99	13.2	2 中	1999～ 2001
	スズマル	7.25	10. 6	80	9.8	125	少	364	100	14.9	2 上	
	スズヒメ	7.23	9.29	66	6.0	116	無	293	80	14.9	3 上	
北見農試	ユキシズカ	7.23	10. 3	44	5.6	122	無	284	91	11.9	2 下	1999～ 2001
	スズマル	7.29	10. 3	63	10.0	124	微	311	100	12.4	3 上	
	スズヒメ	7.26	9.28	57	5.7	111	微	283	91	12.8	3 中	
上川農試	ユキシズカ	7.16	9.21	57	7.8	157	中	373	104	12.6	3 上	1999～ 2001
	スズマル	7.22	9.29	81	10.8	131	中	358	100	14.7	3 下	
	スズヒメ	7.20	9.25	72	8.0	137	中	356	99	12.6	3 下	
遺伝資源 センター	ユキシズカ	7.14	9.15	55	7.9	145	少	291	100	10.4	2 下	1999～ 2000
	スズマル	7.19	9.20	74	9.8	140	中	292	100	11.6	2 中	
	スズヒメ	7.16	9.14	64	7.3	121	中	266	91	11.7	3 上	

試験地名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			倒 伏 程 度	10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢 数		子実重 (kg)	同左比 (%)			
中央農試	ユキシズカ	7.17	9.21	48	8.2	132	微	311	92	12.5	3 中	1999～ 2001
	スズマル	7.21	9.30	61	9.6	124	少	338	100	15.0	3 上	
	スズヒメ	7.19	9.21	54	7.0	113	少	280	83	13.4	3 下	

参照 1) 北海道農政部編，平成14年普及奨励ならびに指導参考事項，1－3 (2002).
2) 山崎敬之 等，北海道立農試集報. 87,21－32 (2004).

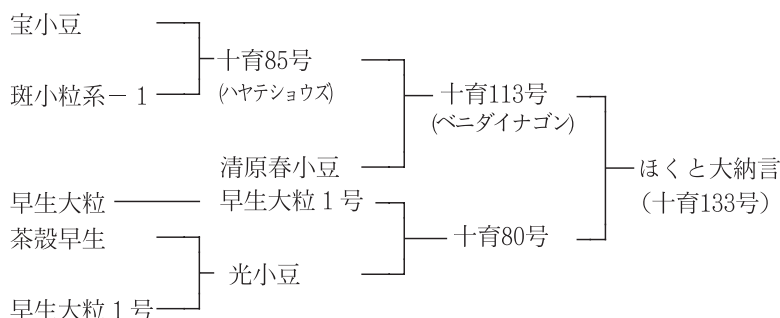
5. 小豆

- (1) ほくと大納言 (系統名 十育133号) 1996年
登録番号：(北海道) 小豆北海道第19号
(農水省) あずき農林第11号
(種苗法) 第7694号

セールスポイント

大納言規格内収量が「アカネダイナゴン」より優り，
外観品質，加工適性に優れる大納言品種である。

来歴 本品種は，良質，大粒，多収品種の育成を目標とし，1983年に北海道立十勝農業試験場において「十育113号」を母，「十育80号」を父として人工交配を行い，以後選抜と固定を図り育成した。1989年より「十系495号」，1992年からは「十育133号」の系統名で各種試験を行い，1996年優良品種となった。なお，本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

- 主茎長は中の短で「アカネダイナゴン」より長く，主茎節数はやや少で少ない。分枝数は同じ多である。
- 小葉の形は円葉である。毛茸の多少と形は少と鈍，花色は黄である。
- 子実の形は円筒，大きさは極大に属し，百粒重は「カムイダイナゴン」より軽い，「アカネダイナゴン」より25%程度重い。種皮色は淡赤で，「アカネダイナゴン」，「カムイダイナゴン」より明るい。
- 開花期は中，成熟期は中の晩で「アカネダイナゴン」と同じである。
- 耐倒伏性は中，低温抵抗性はやや弱，落葉病，茎疫

病，ウイルス病抵抗性はいずれも弱である。

- 子実収量は「アカネダイナゴン」とほぼ同じであるが，大納言規格内収量は優れる。
- 加工製品の色は「アカネダイナゴン」より淡く，加工適性が優れる。

栽培適地と奨励態度

北海道の道央，道南の大納言品種栽培地帯に適する。栽培上の注意は，①落葉病，茎疫病，萎凋病に抵抗性を持たないので，適正な輪作を行うとともに，適正な防除に努める。②雨害等で品質を落とさないため，刈り遅れを避け適期収穫に努める。